

2023年度

事業報告書

自 2023年4月 1日

至 2024年3月31日

一般社団法人 日本自動認識システム協会

目次

1. 事業運営の総括	1
2. 2023年度事業報告	2
2.1 広報及び普及啓発事業	2
2.2 資格認定事業	5
2.3 国内市場動向調査	5
2.4 規格の立案及び標準化の推進事業	5
2.5 部会・プロジェクト活動	6
2.6 研究開発活動	10
2.7 自動認識システム等に関する内外関連機関等との交流及び協力	11
3. 運営体制の強化	11
3.1 企画運営プロジェクト	11
3.2 事務局体制強化	12
4. 事業報告の附属明細書	12

2023 年度事業報告書及び附属明細書

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

1. 事業運営の総括

2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症へ移行となり、ようやく長いコロナ禍を脱した。国内の経済においては 30 年ぶりの高い賃上げ率や、同じく 30 年ぶりの株高、設備投資の高まりなど好転の兆しが見えている。一方で、人手不足や物流の 2024 年問題、脱炭素などの大きな課題に取り組む必要があり、その解決に向けてビジネスと生活の両面でデジタル社会の実現をさらに加速させる必要がある。

当協会の推進する自動認識技術は、効率化・省力化を推進するテクノロジーとして浸透し、社会生活の利便性を向上させ、デジタル社会の情報基盤として不可欠なものとなり、デジタル社会の進化、拡大においても大きな役割を期待されている。DX や GX の持続型経済・社会環境では、これまで以上に高精度な情報基盤と自動化に対応した技術と機器の需要が高まり、すぐれた技術と製品・サービスを向上していくためのデジタル人材への投資も喫緊の課題である。

2023 年度、当協会では、(1)自動認識の普及発展のため「会員サービスの向上」、(2)SDGs と DX に貢献する自動認識システム、を活動方針として、自動認識業界の産業振興に貢献すべく取り組んだ。協会活動も「新たな日常」対応を定着させ、活動内容、手法の見直し、新たな活動企画対応により事業活動を推進した。

当協会でもポストコロナ禍の環境に対応して、総会及び総会懇親会、賀詞交歓会を 4 年振りに対面開催として会員及び関係者の交流機会を提供するとともに、部会、セミナー、講習等はオンライン/オフライン併用での開催を継続して、活動参加の利便性を維持しつつ事業の推進をはかり、自動認識技術の普及啓発、調査研究、標準化、会員企業へのサポートに取り組んだ。

普及啓発面では、「第 25 回自動認識総合展」を 9 月に開催し、海外企業を含む新たな出展者を多く迎え、多くの来場者に自動認識技術及び製品の訴求をすることができた。自動認識関連の優れた技術や事例を表彰する「第 25 回自動認識システム大賞」の表彰式も展示会場内で開催し、会員のみならず関係団体、プレス関係者を含め広く最先端事例の認知度を高め、自動認識技術の高いポテンシャルをアピールした。自動認識市場の発展・拡大に寄与することを目的とした「未来の AUTO-ID プロジェクト」の活動も継続し、本年度は若年層の人材育成として、自動認識総合展会場での大学生向けの MeetUP を継続開催するとともに、新たに小学生向けの MeetUP を夏休み期間に開催した。自動認識技術者の育成強化を目的とした「自動認識技術者資格認定講習・試験」や、新入社員や新任担当者への基礎教育を目的とした「自動認識の基礎知識セミナー」についても、昨年度に引き続き多くの方に受講いただいた。また旬のテーマに関して幅広く情報提供を図る場として「JAISA ビジネスセミナー」の開催も行った。

調査研究、標準化、会員企業へのサポートでは、研究開発センターを中心に新たな規格開発や規格改訂、標準化調査とその周知活動に継続して取り組んだ。部会・プロジェクト活動を通じて会員向けに情報の発信と相互交流を図るとともに、会員内外に向けた新たなガイドラインの公開やセミナー開催等により自動認識の最新情報を幅広く発信した。

これらの事業推進においては、理事会、企画運営プロジェクトを中心に個々の事業の進捗を随時評価し、必要に応じて見直しや新たな取り組みを図るなどのフィードバックを通じて成果の最大化を図った。

また、当協会の独自市場調査である「自動認識市場調査」のアンケート結果では、2023年自動認識市場全体の出荷金額合計は、前年対比4.4%増の2,679億円であった。コロナウイルスの影響も落ち着き経済活性化と思われたが、昨年から続くエネルギー・原材料の値上げからの製品単価の上昇や物価上昇による個人消費の停滞、また、自動車、半導体業界などの製造分野でのバーコードプリンタ、サプライの需要が期待ほど伸びなかった。しかし、バーコードリーダとRFIDの特需で需要が増加し、また、各業種での人手不足からの省人化、効率化に対する自動化が進んでいる中、設備投資も活発化していることからソフトウェアでの需要も増加した。

これらの取り組みを通じて協会運営を継続し、新たに7社の新規入会をいただき、協会活動の基盤の継続ができた。2023年度事業計画に挙げた各分野の事業は概ね実施することができた。事業収支は一部催事の規模縮小により計画を下回る結果となった。各取り組みの概要は以下の通りである。

2. 2023年度事業報告

2.1 広報及び普及啓発事業

(1) 第25回自動認識総合展の開催

2023年9月14日～9月16日の3日間、「東京ビッグサイト」にて第25回自動認識総合展を開催した。今回も「未来をつなぐAUTO-ID -SDGsとDXに貢献-」を開催テーマとし、自動認識技術とソリューション活用で多くのイノベーションを作り出すきっかけを提供し、本展示会が日本で唯一の自動認識関連の展示会であることを強く印象付けた。

展示会と同時開催する「BT Spice 自動認識セミナー」では、自動認識技術の最新導入事例や最新技術動向を紹介した。併せてセミナー会場では、「チュートリアルセッション」「JAISA フォーラム2023」「出展者プレゼンテーション」「自動認識システム大賞表彰式&講演会」等を開催し、自動認識に関する様々な情報発信を行った。

同時開催展として「測定計測展」、「センサエキスポジャパン 2023」、「TEST2023」、及び同時期開催展「国際物流総合展 2023 INOVATION EXPO」と相互入場を実施し、例年のユーザ来場者に加え、様々な分野の方々にも来場いただいた。

(2) 第21回自動認識総合展 大阪の開催

2024年2月21日～2月22日の2日間、大阪市「マイドームおおさか」にて第21回自動認識総合展・大阪を開催した。また、マイドームおおさか8階会議室を会場として自動認識セミナーを同時開催し、関西地域における自動認識技術・ソリューションの普及促進に努めた。出展社数、来場者数ともに前回から増加し、自動認識製品の最新情報やセミナーは来場者から好評をいただいた。

(3) セミナーの開催

① 展示会セミナー

第 25 回自動認識総合展、第 21 回自動認識総合展大阪において「BT Spice (Business & Technology Spice) 自動認識セミナー」を同時開催した。最近のトレンドや市場の変化を捉え、よりユーザー視点に立った自動認識ソリューションを各分野のテーマで、流通・物流現場、医療現場、安全と効率化、自動認識技術を活用した事例等を紹介した。本年度よりすべてのセミナーを聴講無料として多数の方に受講いただき、展示会場への誘客策としても寄与した

② 自動認識の基礎知識セミナー

当協会では自動認識技術の普及啓発活動の一環として自動認識の基礎知識を広く学んで頂くことを目的として、2018 年度より開催している「自動認識の基礎知識セミナー」を引き続き開催した。開催形式は、当協会の会議室を会場とした集合形式と、各企業に協会講師を派遣する講師派遣形式の 2 つの形態で実施し、自動認識技術の普及啓発に努めた。特に講師派遣形式については社内教育の一環として多くの企業に活用いただいている。本年度の結果は以下の通りである。

- ・集合形式 : 5 回開催 (4/21、5/18、6/22、10/24、12/7) 参加者 87 名
- ・講師派遣形式 : 4 社 5 回 14 講座開催 参加者約 500 名 (延べ人数)

③ JAISA フォーラム

当協会の部会・プロジェクト活動及び研究開発活動の内容と成果を周知し、活用を促すことを目的として、「JAISA フォーラム 2023」を第 25 回自動認識総合展のセミナー会場にて開催した。本フォーラムでは RFID、バーコード、バイオメトリクス、画像認識の各分野から計 5 講演を行い、会場での聴講者数は昨年度を上回る結果となった。この活動により、最新の自動認識技術の活用動向や協会活動及び部会・プロジェクト活動について、広く一般にも周知した。

④ JAISA ビジネスセミナー

新たに会員企業向けに幅広く情報提供を図る場として「JAISA ビジネスセミナー」を企画し、QR コードにみるイノベーション、製造業における DX をテーマに 2 回開催した。自動認識ビジネス及び企業経営に関わる「旬」なテーマを取り上げ、会員のビジネス推進に有意義な内容を提供した。

(4) 自動認識システム大賞

自動認識関連の技術やシステムを用いた先端的かつ、その効果が極めて顕著な優れた作品を公募し、ユーザ企業からの応募も含め 15 件の応募を集めた。産学官の業界有識者の厳正なる審査により、自動認識システム大賞 1 件、優秀賞 2 件、産経新聞社賞 1 件、特別賞 1 件を選定し表彰した。本年度も展示会場内のセミナー会場にて表彰式を実施、受賞各社より受賞作品のプレゼンを行った。

また、本事業の成果を報道機関に取材、掲載いただくと共に、最先端導入事例として協会ウェブサイト及び自動認識技術情報誌「JAISA NOW」にて紹介し、自動認識技術の啓発に努めた。

(5) 会報誌「JAISA」、自動認識技術情報誌「JAISA NOW」

協会事業活動の紹介記事を中心とした会報誌「JAISA」を季刊発行し、協会ウェブサイトに掲示した。誌面では、例年の協会催事の報告に加え、各部会・プロジェクトの活動や最新の技術動向の紹介を行った。また、9月には各部会活動、市場動向や最新の技術動向を紹介した自動認識技術情報誌「JAISA NOW」を発刊。自動認識総合展及び当協会主催のイベントや関係団体主催の展示会場にて配布した。会員及び一般の方々に広く紹介し自動認識技術の普及・啓発事業に活用した。

(6) ウェブサイトによる情報提供

協会ウェブサイトでは、自動認識総合展及び併催セミナー、自動認識システム大賞、自動認識技術者資格認定試験、部会・プロジェクトの活動状況、標準化関連情報、各種ガイドラインや自動認識システム導入事例集等の協会活動や自動認識関連技術動向に関する幅広い情報提供を行った。

(7) ツール類の提供

高機能 JIS 向け「超精密テストチャート」の提供

昨年度に引き続き、「JIS X 0527（自動認識及びデータ取得技術—バーコードプリンタ及びバーコードリーダーの性能評価仕様）」で規定しているバーコードリーダーの読取性能試験で用いる超精密テストチャートの有償提供を継続実施したが計画未達に終わった。また新たに ISO/IEC 24458 用テストチャートの有償提供の準備も進めた。

(8) 広報活動

当協会の認知度向上と活動内容広報のため、業界新聞や業界誌において広報情報の掲載を適宜実施した。メールマガジン「JAISA 通信」では協会催事の告知と部会・プロジェクト活動の紹介を定期的（概ね 2 回/月）に発信し、ウェブサイトと連携した情報発信を行った。

それらと共に会報誌「JAISA」・自動認識技術情報誌「JAISA NOW」、「JAISA フォーラム」や各部会で開催した講演会、セミナーを活用し、各部会・プロジェクト等の活動や、標準化活動における最新の活動成果等を積極的に情報発信した。また、全国紙など一般報道機関からの自動認識に関する取材依頼にも積極的に対応し、一般向け情報発信も実施した。

(9) 未来の AUTO-ID プロジェクト

「未来の AUTO-ID プロジェクト」は、自動認識技術に関係する事業者（ユーザ・メーカー・SIer 等）に対して、「自動認識技術の活用事例の具現化」を体感できる展示を提供することで、自動認識システムの認知度を高め、自動認識市場の発展・拡大に寄与することを目的として活動を継続した。本年度は、開発検討 WG では番号（コード）管理と自動認識を体験できるデモシステムの検討及び展示会への展示を行い、情報発信検討 WG では次世代層への体験型情報発信「AUTO-ID MeetUP」の企画、開催を行った。「AUTO-ID MeetUP」では、初めて小学生向けの企画「IC タグやバーコードを体験しよう！ AUTO-ID MeetUP for JUNIOR」を夏休み

期間に開催した。参加の小学生及びご家族に自動認識に関する知識と体験を共有いただき好評を博した。また、9月の自動認識総合展会場では「第3回 AUTO-ID Meet UP」（学生向け見学ツアー）を開催し自動認識最先端ソリューションを体験していただき、キャリアアップに役立てていただいた。

2.2 資格認定事業

自動認識技術者の育成・確保を図ると共に、その技術を広く社会に知らしめていくことを目的とする自動認識技術者認定登録を行うため、下記の日程にて講習及び試験を実施した。

自動認識基本技術者に関しては、受講者の負担を減らすために、昨年度より講習をオンライン、試験を会場で行っているが、本年度よりオンライン講義のオンデマンドによる再配信も実施した。

RFID 専門技術者についても、基本技術者と同様の目的で3日間の講習を会場、オンラインのいずれかを選択できるようにし、受講者の増加をはかった。

これにより、基本技術者資格認定者は2,715名、RFID 専門技術者資格認定者は291名、バーコード専門技術者資格認定者は35名となった（いずれも累計）。

- ・2023年 7月 第50回 自動認識基本技術者資格認定講習・試験
講習はオンライン、試験は東京、大阪、仙台の3会場
- ・2023年 11月 第51回 自動認識基本技術者資格認定講習・試験
講習はオンライン、試験は東京、名古屋、福岡の3会場
- ・2024年 2月 第18回 RFID 専門技術者資格認定講習・試験
講習は会場（JAISA 会議室）/オンライン、試験は JAISA 会議室

2.3 国内市場動向調査

国内唯一の自動認識産業団体として、自動認識市場の市場動向の把握と、会員企業への情報発信を行うため、本年度も会員企業のみならず、非会員企業に協力を要請、出荷実績調査を実施した。各部会・委員会等から選出されたメンバーで構成する市場統計委員会が中心となり、2023年1月から12月までの1年間に国内市場に出荷された各種自動認識機器、消耗品（RFID タグ等）をアンケート形式で調査、分析し2023年における市場規模を算出。併せて2024年の市場動向についての数値予測を行った。

2.4 規格の立案及び標準化の推進事業

(1) ISO/TC 122/WG 12 標準化推進

ISO/TC 122（包装）/WG 12（サプライチェーンへの物流技術の適用）の国内対策委員会として ISO/TC 122/WG 12 国内委員会を引き続き開催し、バーコード、二次元シンボル、RFID 等の自動認識技術を物流に活用するための関連規格の審議を行うと共に、ISO/TC 122 の国内審議団体である公益社団法人 日本包装技術協会と連携・協力し、国際標準化活動を行った。

(2) ISO/IEC JTC 1/SC 31 標準化推進

ISO/IEC JTC 1/SC 31（自動認識及びデータ取得技術）/WG 1（データキャリア）、WG 2（データストラクチャ）、WG 4（RFID）、WG 8（自動認識規格のアプリケーション）の国

際標準化について一般社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）との連携・協力活動を行った。

また、JEITA が主催する SC31/WG 1 専門委員会及び WG 合同委員会に委員として参加し、自動認識技術に関連した各種 ISO/IEC 規格及び JIS 規格の検討、コメント対応、投票意見提出など審議に参加した。

(3) ISO/IEC JTC 1/SC 37 標準化推進

ISO/IEC JTC 1/SC 37（バイオメトリクス）の標準化活動は、本年度も JTC 1 技術委員会、SC 37 専門委員会、SC 37/WG 5 小委員会と連携して活動した。バイオメトリクス部会の活動から新規提案した ISO/IEC 5152（極値統計を利用した精度評価）は FDIS に進み、来年度に国際標準制定となる見込み。これにより精度評価必要サンプル数が数分の 1 に削減できる。

また、バイオメトリクスに関連する標準化の検討状況の国内周知と標準の普及・啓発を図るため、生体認証国際標準化セミナーを本年度も 2 日間に亘って開催。新任講師 3 名を加え 8 名の講師陣にて、申込 158 名、参加者 122 名にて実施した。

2.5 部会・プロジェクト活動

部会・プロジェクトでは、会員サービスの向上を念頭に、4 部会 2 プロジェクトの活動を通して会員企業の事業に役立つ“付加価値”を提供するため、仲間作りの場の提供、業界最新情報や関連省庁の最新情報の提供や普及啓発活動、市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見及びその解決への取組みの場として活動に取り組んだ。部会・プロジェクトの各グループが主催する会議は、基本的に 1～2 ヶ月に 1 回程度開催した。

2.5.1 部会・プロジェクト活動全般

(1) 会員への業界情報提供と会員相互交流・親睦活動

① 講演会・セミナーの開催

会員相互の仲間作りの場、業界最新情報及び関連省庁の最新情報等を提供するため、各部会・プロジェクトにおいて情報交流会を 2 ヶ月に 1 回開催し、市場ニーズやユーザの導入事例、各社の製品紹介、技術・標準化動向、当協会で行っている研究開発事業の活動内容や成果等に関する講演会・セミナーを開催した。

② 現地視察研修会の開催

各部会・プロジェクトにおいて、自動認識技術を導入して成果を上げている物流センターや工場等の施設を訪問する現地視察研修会（見学会）を 4 回開催、合計 66 名が参加した。自動認識技術の導入現場を見学すると共に、システム導入の背景、導入効果や課題、自動認識技術に対する期待等について意見交換を行った。

(2) 市場課題の解決に向けた活動

① 課題抽出への取組みの実施

自動認識技術の普及啓発や自動認識市場拡大のために解決すべき業界共通課題の発見のた

め、関連するセミナー、技術グループ会議や意見交換会、アンケート調査等の方法により、各部会・プロジェクトのメンバーからの課題提起を促すと共に、業界に共通する課題を見出すための活動を行った。

② 業界課題の解決に向けた活動の実施

業界の課題抽出への取り組みの結果として明らかとなった共通課題等の解決のため、各部会・プロジェクトに設置した技術グループや作業グループにおいて、その解決に向けた活動を行った。また、関係省庁や関連団体への積極的な働きかけを通して関係者との協力関係を醸成し、外部からの研究開発受託事業や自主事業として、関係省庁や標準化団体、ユーザ団体、関連企業とも協力・連携して課題解決に結びつけるための活動を行った。

(3) 技術分野横断活動

① 部会・プロジェクト連絡会の開催

部会・プロジェクト連絡会を6月と11月に開催した。連絡会には、部会・プロジェクト幹部、協会三役とJAISA担当事務局等の30名程が出席した。本会では部会・プロジェクトの活動活性化や相互協力・連携が必要な活動の発見とその実現に繋げるため、それぞれの活動内容や問題意識とその解決への取組み、相互に連携が必要な課題の共有や意見交換を行った。

② 合同部会（自動認識システム大賞受賞作品紹介）の開催

第25回自動認識システム大賞受賞作品の内容を一度に聴講できる機会を会員企業に提供するため、10月に合同部会をオンラインで開催した。本会では、第25回自動認識システム大賞の大賞、優秀賞、産経新聞社賞、特別賞の各賞を受賞した5つのシステムの詳細内容に関するセミナーを実施した。

③ 部会開催情報の各部会・プロジェクト間共有の実施

各部会・プロジェクトの情報交流会等で開催するセミナー等を、他の部会・プロジェクトからも参加する事ができるよう、セミナー開催情報を必要に応じて部会・プロジェクト間で共有した。

(4) 会員外への普及啓発活動

① 市場への情報提供活動の実施

業界の発展に寄与するため、市場への情報提供と啓発のための活動を実施した。国際規格、国内規格、自動認識技術の導入事例、当協会の研究開発事業等の事業活動内容を、ユーザや関係団体等の会員企業以外に対して必要に応じて周知を図った。協会メールマガジン、協会ウェブサイトや依頼講演への対応、雑誌記事への執筆投稿や広報発表など多くのチャンネルを活用して情報発信を行った

② 業界啓発のための活動の実施

各部会で市場啓発のための活動に取り組んだ。

RFID 部会では、RFID 技術グループでは自動認識基本技術者資格試験の教本となっている「よくわかる RFID」を約 10 年ぶりに改訂を行い、陸上移動局新設などの最新情報を反映し発行した。アプリケーション技術グループでは「RFID 活用ガイドライン」の改訂に取り組み、最新の情報を反映した第 3 版を 9 月に公開した。また、RFID 活用ガイドライン 別冊 ケーススタディ 2 「S-2 資産管理 RTI 容器管理」編を 9 月に公開し、RFID の導入を成功に導くための情報提供の活動を行った。

バイオメトリクス部会では、10 月には、「国際標準化セミナー」を開催し国際標準の普及啓発に努めた。11 月に「生体認証ビジネス実践セミナー」を開催、経済産業省の政策（生成 AI）や近年のビジネスの変化をまとめるとともに、申込 159 名、参加 114 名を得て、最新技術（マルチモーダル、常時認証、生体認証基盤）についての活用事例を報告した。

また、システム部会では、自動認識技術の普及、市場拡大のために、JAISA 会員企業が導入した自動認識技術の利活用事例をインターネット上で公開している自動認識システム事例集に最新の掲載事例を追加掲載し充実を図った。一般向けに自動認識システムの効果的な活用事例を紹介する「自動認識システム導入事例セミナー」を開催し、効果的な自動認識システム導入事例 4 件を紹介した。本セミナーには 160 名程が参加した。

③ JIS X 0527 普及セミナーの開催

2018 年度に規格制定された JIS X 0527（自動認識及びデータ取得技術ーバーコードプリンタ及びバーコードリーダーの性能評価仕様）の規格説明等の周知活動として、昨年度に引き続き、オンラインセミナーを 4 回開催した。

2.5.2 各部会・プロジェクト活動

(1) 部会・プロジェクト合同活動関係

- ・部会・プロジェクト連絡会 : 2 回開催（6 月、11 月）
- ・合同部会（自動認識システム大賞受賞作品紹介） : 1 回開催（10 月）

(2) バーコード部会

- ・バーコード部会マーケティンググループ幹事会 : 2 回開催
- ・バーコード部会情報交流会 : 5 回開催
- ・バーコード技術グループ（ISO/IEC TR24720 改訂作業分科会） : 4 回開催
- ・バーコード技術グループ（JISX0527 改訂作業分科会） : 1 回開催
- ・ユーザ見学会 : 1 回開催

(3) RFID 部会

- ・RFID 部会幹事会 : 6 回開催
- ・RFID 部会情報交流会 : 6 回開催
- ・RFID 技術グループ会議（WG 会議を含む） : 13 回開催
- ・ARIB 電子タグ作業班会議に参加 : 5 回参加
- ・総務省 433MHz アドホックグループ会議に参加 : 2 回参加
- ・アプリケーション技術グループ会議 : 6 回開催

- ・ユーザ見学会 : 1 回開催
- ・RFID 活用ガイドライン 第3版の発行
- ・RFID 活用ガイドライン別冊「S-2 資産管理 RTI 容器管理」編の発行

(4) バイオメトリクス部会

- ・幹事会（活動方針、計画検討） : 6 回開催
- ・意見交換会（意見交換と業界課題抽出） : 2 回開催
- ・バイオメトリクス部会 総会（活動審議） : 1 回開催
- ・バイオメトリクス部会 Web ニュース（情報共有） : 49 回配信
- ・生体認証国際標準化セミナー（普及広報） : 1 回開催
- ・生体認証ビジネス実践セミナー（市場啓発） : 1 回開催
- ・画像合成応用性能評価標準化検討
異業種連携 - 自己主権型調査 - 合同報告会 : 1 回開催
- ・精度評価技術グループ（業界課題解決の取組み） : 7 回開催

(5) システム部会

- ・システム部会幹事会 : 3 回開催
- ・システム部会情報交流会 : 3 回開催
- ・ユーザ見学会 : 2 回開催
- ・自動認識システム導入事例セミナー : 1 回開催

(6) 医療自動認識プロジェクト

- ・医療自動認識プロジェクト会議 : 6 回開催
- ・プロジェクト幹部会 : 4 回開催
- ・内閣府 SIP 3期 B-5 チーム オブザーバー参加 : 6 回参加
- ・「バーコード/RFID の活用と医療 DX」に寄稿（4 項分担当） : 1 件
- ・医療用医薬品新バーコード対応スキャナー一覧改訂 : 1 件

(7) 画像認識プロジェクト

- ・情報交流会（WG 活動報告、セミナー開催など） : 5 回開催
- ・プロジェクト幹部会（プロジェクト運営討議） : 5 回開催
- ・WG 会議
 - 技術調査・適用 WG（画像認識技術のユーザ事例調査） : 4 回開催
 - ガイドライン検討 WG（画像認識技術利活用の検討） : 10 回開催
 - 交流推進 WG（外部団体連携、セミナーのテーマ等） : 7 回開催
- ・見学会 : 2 回開催
- ・情報交流会（WG 活動報告、セミナー開催など） : 5 回開催
- ・プロジェクト幹部会（プロジェクト運営討議） : 6 回開催

2.6 研究開発活動

研究開発活動は、市場創造や産業育成のために課題や阻害要因を解決するための活動と位置付け、会員企業をはじめ、関係組織・団体等とも連携して活動した。

また、自動認識市場の活性化による会員企業のビジネス拡大に貢献するために、事業の成果を部会やセミナー等を通じて、会員企業を含めた広く一般に情報提供した。

(1) バーコード関連

①ダイレクトパーツマーキングガイドラインの改訂

ISO/IEC TR 24720 は、JAISA 提案で開発されたテクニカルレポート (TR) である。この TR は 2021 年 10 月の SC31/WG1 国際会議において改訂が決議されたことから、バーコード部会において、この改訂に米国と共同で取り組んだ。

②GS1 データマトリックス直接印字プロジェクト

現在のインクジェットプリンタによる段ボールへの GS1 データマトリックス コード直接印字の品質水準や、各種条件の品質と読取率に与える影響を確認、検証し、比較的安定した運用が見込まれる条件、リスク、留意点を整理する目的で、GS1 Japan 受託事業として本プロジェクトを実施した。

(2) RFID 関連

① 物流における自動認識技術(電子タグ等)利活用のためのデータ共通化に関する標準化

各企業間、国際間で電子タグの共通利用を可能にし、物流現場でもその場で必要な情報を電子的に取得できるようにすることで業務の自動化に繋げる事を目的として実施した実証実験の結果を TR として国際提案した。これは経済産業省の受託事業として実施した。

(3) バイオメトリクス関連

① 画像合成手法を用いた生体認証性能評価方法に関する標準化

コロナ禍で生体認証の利活用が広がり、多様な利用環境で多彩な人々の生体認証ができるかの評価が必要である。しかし、そのサンプルの収集には膨大なコストがかかる。極力利用シーンでのサンプル収集を試みているが、限りある時間、コスト的制約の中、必ずしも十分なサンプルを得られていない。

そこで、画像合成を用いて人工サンプル合成ができないかを経済産業省の受託事業として実施。今年 1 月 SC37 国際会議にて FutureWork としてプレゼンテーションを実施した。

② 異業種連携標準化調査

コロナ禍が収束し、生体認証の利活用が仕事や生活に浸透、異業種間での利活用も進みつつある。一方、欧州の GDPR (EU 一般データ保護規則) や AI Act (AI 規制法案) によってハイリスク案件として規制対象になろうとしている。

異業種間で生体認証を広げていくには、目的外利用とみなされないように、自己主権的な本人同意を取得する必要がある。そこで、異業種間で生体認証を利用することを普及するため、本人同意手順を明確化、非機能要件として国際標準作りを経済産業省へ提案。来年度より産総研の支援を受け標準開発をスタートさせる。

2.7 自動認識システム等に関する内外関連機関等との交流及び協力

関係省庁や団体の活動に積極的に協力・参画し、市場ニーズ、技術トレンド、標準化動向、国の施策などの情報収集ネットワークを構築、維持することで、当協会が取組むべき新領域の情報を掴むとともに会員企業に的確な情報提供を実施した。

(1) 関連省庁の指導及び産業育成計画や行政施策の把握

経済産業省をはじめ、総務省等関係省庁や関係諸団体との積極的な交流、情報収集により自動認識関連情報を迅速に入手し会員企業への情報提供に努めた。また、関係省庁からの会員企業等への指導・行政施策情報など公的機関からの周知情報は、適宜会員企業の連絡担当者宛に情報配信し、会員企業への情報共有に努めた。

(2) 産業団体、標準化団体等との交流

公益社団法人 日本包装技術協会、一般社団法人 電子情報技術産業協会、一般財団法人 流通システム開発センター（GS1 Japan）等をはじめとする関連団体が行う標準化、規格作成等に委員・オブザーバ等として積極的に参画し、規格策定を支援した。また、物流、包装、セキュリティ関係諸団体との情報交流も実施し、関係構築と自動認識関連の普及啓発を実施した。さらに、バイオメトリクス及びバーコード関係で一般社団法人 ID 認証技術推進協議会との情報交流を行った。

(3) 研究開発関連団体との連携

学会や大学研究部門、国立研究開発法人 産業技術総合研究所との交流を図った。

特に、バイオメトリクス関係では、統計数理研究所と連携して開発してきた極値統計を用いた精度評価手法が国際標準として発行されることとなった。また、電子情報通信学会バイオメトリクス研究会のシンポジウム開催を協賛し、JAISA のプレゼンス向上をはかった。さらに、大学研究室の学生と企業の技術者と連携し、画像合成 AI を用いた性能評価用サンプル作成を行い、精度評価検証を行い、検証結果をもとに1月開催の SC37 国際会議 WG5 において Future Work と画像合成 AI を用いた性能評価方法をプレゼンテーションした。産業技術総合研究所とは研究員を調査委員会メンバーとして招聘し、異業種連携の運用プロセスについて来年度以降の国際標準化プランを作成していただいた。

3. 運営体制の強化

当協会が時代の変化に的確に対応し、永続的に自動認識業界の発展を牽引し、貢献できる運営体制の強化に努めた。

3.1 企画運営プロジェクト

理事会より迅速に協会運営全般を評価し、事業運営を的確に判断する目的で発足した当プロジェクトを本年度も継続して開催した。（12回開催：毎月第2火曜日開催）

また、各 KPI レビューを確実に実施し当協会の運営全般について検討することで理事会運営を支援した。

3.2 事務局体制強化

業務対応力及び事業企画力の強化のために、下期より人員増を行い事務局体制の強化をはかった。

4. 事業報告の附属明細書

2023 年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。